

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AI パネル①

1. 齊藤 蓮 (さいとう れん) / 22 歳

- 属性：東京都中野区在住。IT 企業 1 年目。一人暮らし。
- 美容タイプ：美容液初心者
- 購入チャネル：大手ドラッグストア（マツモトキヨシ等）
- 購入の動機：YouTube で流れてきた反町隆史さんの CM に目を奪われた。「大人の男の余裕」に憧れを感じ、学生時代からの肌荒れ体質を卒業したくて奮発。
- 現状：人生初の美容液。黒いボトルの高級感に気圧されつつも、洗面台に置くと「仕事ができる男」になった気がしてモチベーションが上がる。ただ、新卒の給料ではリピートが少し厳しいと感じている。

<結果サマリー>

「デキる男」への変身を誓う、新社会人のための自己投資としての“武装型”美容液消費

1. 美容についてのこだわり

都内在住の新社会人である対象者は、IT 企業での勤務開始を機に「仕事ができそうな雰囲気」や「大人の余裕」を強く志向している。学生時代からの肌荒れ体質への劣等感を抱えつつ、現在は清潔感を自己管理能力の証と捉えている。彼にとって美容は単なる外見磨きではなく、「中身の余裕が外見に出る」状態を作り出し、社会人としての自信を底上げするための重要な戦略的活動となっている。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

朝晩のルーティンに加え、週末には高価なシートマスクで「今日は肌を休ませよう」と自分を労る時間を設けている。目指すのは、周囲から「ちゃんと手入れが行き届いているな」と思われるような、清潔感のある均一な肌である。対象者にとって肌のコンディションは、自身の生活の規律を測るバロメーターであり、肌を整えることで「デキる男」としての精神的な基準値をクリアしようとする心理が働いている。

3. 現使用美容液購入経緯

YouTube 広告で見た反町隆史氏の姿に「大人の男の余裕」を感じ、自らの幼さを卒業したいという衝動に駆られた。高価な商品に気圧されつつも、店頭で黒いボトルの重厚感に触れた際、「やっぱりこれだ」と直感的に購入を決意した。人生初の美容液選びにおいて、他社比較による性能評価よりも、その製品が象徴する「憧れのステージ」へ自分を引き上げてくれる道具としての価値が決定打となった。

4. 現使用美容液使用実態と評価

高価な一滴を「1 滴も無駄にしたくない」と、指の腹で丁寧に押し込む所作に強いこだわりを持っている。この行為は単なる塗布ではなく、自分を高めるための儀式と化しており、洗面台に置かれたボトルを見るだけで「仕事ができる男」になったような高揚感を得ている。価格面でのリピートの厳しさは感じているものの、肌の安定と同時に得られる「いいものを使っている自分」への満足感が極めて高い。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

今後も継続を望む背景には、使用を止めることで「またあの頃（自信のない自分）に戻ってしまう」という強い恐怖心が存在する。対象者にとって本製品は、社会人としての自分を支える「武装」であり、安価な代替品への切り替えはセルフイメージの崩壊を意味する。エステ等の外部サービスには「まだ早い」と距離を置き、あくまでこの一瓶を使い続けることで、自らの手で「理想の大人」を体現したいと願っている。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

本日はお忙しい中、ありがとうございます。まずはじめに、斉藤さんのことについて少し伺わせてください。お名前や今のお住まい、お仕事、あとご家族の構成などはどのようになっていますか？

対象者： 斉藤蓮です。22歳です。今は中野区で一人暮らしをしています。今年の春からIT企業で働き始めたばかりの新社会人ですね。

インタビュアー： 新社会人としての生活が始まったばかりなのですね。そんな中で、斉藤さんが「自分の美容」について、スキンケアに限らずこだわっていることや意識していることは何かありますか？

対象者： こだわり……。そうですね、昔から肌が荒れやすかったのもあって、清潔感だけは損なわないように、というのはずっと意識しています。最近、学生の頃とは違って「仕事ができそうな雰囲気」というか、少し大人っぽく見られたいという気持ちが強くなってきました。持ち物もそうですけど、肌のコンディションが整っていると、自分に自信が持てる気がするんです。

インタビュアー： 「仕事ができそうな雰囲気」ですか。斉藤さんにとって、その雰囲気と肌のコンディションは、どのようにつながっている感覚なんですか？

対象者： うーん、やっぱり肌がボロボロだと、生活が乱れてるのかなって思われそうで。逆にシュツとしていっていると、自分の管理がちゃんとできている「余裕のある大人」っていう感じがするじゃないですか。そういう、中身の余裕が外見に出るような状態に憧れているんだと思います。

インタビュアー： 中身の余裕が外見に出る。それは、誰か特定のイメージがあったりするのでしょうか？

対象者： 具体的にこの人、というのは難しいですけど……。でも、最近テレビやネットで見かける、落ち着いた大人の男性の立ち居振る舞いなんかを見ると、自分もあになりたいなって、つい自分の肌と見比べちゃいますね。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

ありがとうございます。では、普段のスキンケアについて詳しく教えてください。朝と夜、それぞれどのようなステップでケアをされていますか？具体的なアイテム名やブランド名もあわせて教えてください。

対象者： 朝は、まず洗顔料で顔を洗います。そのあとは、ドラッグストアで買った無印良品の導入化粧水をつけて、それから SHISEIDO MEN のアルティミューンをつけています。最後は同じく無印の乳液で蓋をする感じです。夜もステップはほぼ同じですね。ただ、夜は少し丁寧に、肌をこすらないように気をつけて馴染ませるようにしています。

インタビュアー： 無印良品と SHISEIDO MEN を組み合わせていらっしゃるんですね。毎日ではないけれど、時々行うようなスペシャルケア、例えばパックやサロンでのケアなどは何かありますか？

対象者： スペシャルケア……。たまに、週末とかにドラッグストアで1枚売りのちょっと高いシートマスクを買って使うことはあります。ブランドは決まっていらないんですけど、その時の気分で「今日は肌を休ませよう」と思った時に。あとは、たまに自分で小鼻の角栓をケアするくらいですね。

インタビュアー： その時々で選ばれるんですね。そういった日々のケアを通して、斉藤さんは最終的にどのような肌を目指しているのでしょうか？

対象者： ひとこと言うなら「清潔感のある、つるんとした肌」です。僕はもともと肌荒れしやすい体質だったので、ニキビ跡や赤みがない、均一な感じに憧れます。単に綺麗というよりは、さっきも言ったよう

に「ちゃんと手入れが行き届いているな」と周囲に思わせるような、健康的な肌になりたいです。

インタビュアー：「ちゃんと手入れが行き届いていると思わせる」というのは、斉藤さんにとってどういう意味合いが強いのですか？

対象者：自分のコンディションをコントロールできている、っていう証拠みたいなものですかね。仕事でも、肌が荒れていると「昨日夜更かししたのかな」とか「余裕がないのかな」って思われそうで。肌が整っているだけで、自分の中の「できる男」の基準を一步クリアできているような気がするんです。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：

今お話に出た「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」ですが、これを買おうと思った最初のきっかけは何だったんですか？

対象者：YouTube をダラダラ見ていた時に、反町隆史さんが出ている CM が流れてきたんです。それがすごく格好良くて、一瞬で目を奪われたというか。

インタビュアー：反町隆史さんの CM。どのあたりに目を奪われたんでしょう。

対象者：なんて言うんですかね……「大人の男の余裕」が溢れ出ている感じがしたんです。20代の僕から見ると、ああいう渋くて洗練された雰囲気ってすごく憧れるんですよ。それで「これを使えば、自分もああいうステージに一步近づけるんじゃないか」って、直感的に思っちゃいました。

インタビュアー：「自分もああいうステージに」。その CM を初めて見た時の印象を、もう少し詳しく教えていただけますか？

対象者：「あ、これは僕が普段使っているものとは次元が違うな」という印象でした。僕は学生の頃からずっと肌荒れに悩んでいて、今までは「治す」ためのスキンケアばかり選んでいたんです。でも、その CM からは「もっと上を目指す」みたいなポジティブなエネルギーを感じて。正直、資生堂っていうブランド自体に少し気後れする部分もありましたけど、逆に「今の自分を卒業したい」という気持ちが勝りましたね。

インタビュアー：「今の自分を卒業したい」。そこから実際に購入するまで、どのような検討をされたのですか？ 誰かに相談したり、他の商品と比べたりしましたか？

対象者：相談は誰にもしてないです。でも、安くない買い物なので、ネットで口コミはかなり調べました。「ベタつかないか」とか「敏感肌でも大丈夫か」とか。ただ、比較検討というよりは、自分を納得させるための材料を探していた感じに近いかもしれません。最終的には、マツモトキヨシに行って実物の黒いボトルを見た瞬間に、「やっぱりこれだ」って決めてしまいました。

インタビュアー：実物を見て。その黒いボトルの何が、斉藤さんの決め手になったのでしょうか？

対象者：高級感ですね。ずっしりとした重厚感があって、これを自分の洗面台に置いているところを想像したら、すごくモチベーションが上がるなと思って。「仕事ができる男の道具」を手に入れるような感覚でした。

インタビュアー：そもそも、斉藤さんは以前から「美容液」というアイテムは使われていたのですか？

対象者：いえ、全く。人生で初めてです。今までは洗顔、化粧水、乳液だけで十分だと思っていました。

インタビュアー：初めての美容液に、なぜあえて今、挑戦しようと思われたのですか？

対象者：社会人になったのが大きいと思います。学生の延長線上のケアじゃなくて、ワンランク上のことをしないと、理想の「余裕のある大人」にはなれない気がして。あとは、自分への投資というか、気合を入れるための儀式みたいなものかもしれません。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：

実際に「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を使ってみて、使い方として何か意識していることはありますか？

対象者： 使うタイミングは、朝と夜、化粧水のあとに必ず入れるようにしています。意識しているのは、手のひらで少し温めてから、顔全体に優しくハンドプレスするように馴染ませることですね。以前は適当に塗り広げて終わりだったんですけど、これに関しては、指の腹を使って内側から外側へ、染み込ませるようなイメージで動かしています。

インタビュアー： 指の腹を使って染み込ませるように。なぜ、その動かし方を意識されているのですか？

対象者： せっかく高いお金を出して買った「いいもの」なので、1滴も無駄にしたいくないっていうのが正直なところですよ（笑）。雑に塗るより、丁寧に肌に押し込む方が、成分が奥まで届いて「大人の肌」に近づける気がするんですよ。自分の肌を労っている感じがして、その時間自体が「仕事モード」への切り替えや、リラックスにつながっている気がします。

インタビュアー： 儀式のような時間になっているのですね。今、この商品に対しての満足度を5段階で評価するとしたら、どの段階になりますか？

対象者： うーん……「4」ですね。

インタビュアー： 4。その理由や、具体的に満足している点、逆に物足りない点について教えてください。

対象者： 満足しているのは、やっぱり使った後の肌の質感です。ベタつかないのに、内側がしっかり潤っている感じがして、朝起きた時の肌の調子が以前より安定してきた気がします。あとは、なんと言ってもあの香りとボトルの存在感ですね。使うたびに「いいものを使っている自分」を再確認できる。物足りない点は……性能じゃないんですけど、やっぱり価格ですね。新卒の給料でこれを使い続けるのは、正直ちょっと背伸びしすぎかなって思う瞬間があります。

インタビュアー： 「背伸びしすぎかな」と感じるのは、どんなタイミングですか？

対象者： 残量が少なくなってきたのを見た時ですね。「あ、もうすぐ買わなきゃいけないのか、今月厳しいな」って現実に引き戻されるというか。でも、使っている時の高揚感は捨てがたい……。自分にとってこのセラムは、単なるスキンケア以上の「自信をくれるアイテム」になっているんだと思います。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：

今後も、この「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を使い続けたいかどうか、5段階評価で言うといくつになりますか？

対象者： 評価としては「4」ですね。

インタビュアー： 4。その理由や、使い続けることで期待していることについて教えてください。

対象者： 使い続けたい気持ちはすごく強いです。これを使っていると、自分の肌に責任を持っている感じがして、精神的にも「余裕のある大人」に近づけている感覚があるんですよ。続けていくことで、学生時代からの悩みだった肌荒れを完全に卒業して、いつ誰に見られても恥ずかしくない、自信に満ちた肌になれることを期待しています。

インタビュアー： 「いつ誰に見られても恥ずかしくない肌」。一方で、先ほど「新卒の給料ではリピートが厳しい」というお話もありましたが、他にも興味を持っている美容液などはありますか？

対象者：実は、もう少し手頃な価格帯のメンズ美容液も、SNSの広告とかで流れてくるとつい見ちゃいますね。でも、今のところは「これに代わるもの」は見つかっていません。安いものに変えて、今のこの「高揚感」や「自信」がなくなってしまうのが怖いというか、せっかく始まった「いい習慣」を崩したくない気持ちの方が勝っています。

インタビュアー：「今の高揚感を崩したくない」。最後に、この商品に対して、斉藤さんから何か要望や「こうなったらいいな」と思うことはありますか？

対象者：製品自体にはすごく満足しているんですけど……。詰め替え用というか、もう少しリピートしやすい価格設定のプランがあったら、僕みたいな新社会人でも迷わず使い続けられるのにな、とは思っています。あとは、この黒いボトルのデザインがすごく好きなので、これを活かしたまま、中身だけ補充できる仕組みがあれば最高ですね。

<追加>

インタビュアー：

もしこの美容液を使わなかったら、あるいは今使うのをやめてしまったら、「こうになってしまうかも」と不安に思うことや、頭に浮かぶイメージはありますか？

対象者：……そうですね、一番怖いのは「またあの頃に戻ってしまうんじゃないか」っていう感覚です。学生時代の、鏡を見るたびに肌荒れを気にして、どこか自分に自信が持てなかった自分に逆戻りしそうな気がして。

インタビュアー：「あの頃の自分」に逆戻りする。

対象者：はい。今はこれを使っていることで、「自分はちゃんと手入れをしている」「自分を律している」という実感を持っています。でも、もしこれをやめて、適当なケアに戻ってしまったら、その瞬間に「仕事ができる男」を目指す自分まで崩れてしまいそうな不安があります。肌が荒れること自体も嫌ですけど、それ以上に、自分を磨こうとする意欲というか、セルフイメージが下がってしまうのが一番怖いんだと思います。

インタビュアー：肌の状態だけでなく、斉藤さん自身の意欲やセルフイメージが崩れる感覚なのですね。

対象者：ええ。僕にとってこの黒いボトルは、単なる化粧品というよりは、社会人としての「武装」に近いのかもしれない。これを持たない自分は、また何の特徴もない、ただの自信のない若者になってしまう……。そんなイメージがどうしても拭えませんね。